



JAA通信

(Japan Autonomous Academy)

日本自治 ACADEMY 会報誌

Vol.18 2023年6月発行

(ホームページアドレス)

<http://japan-a-academy.jp/>

[発行]

NPO法人 日本自治ACADEMY

北海道下川町西町88番地2(株)谷組内

郵便番号 098-1205

Tel:01655-4-2595

Fax:01655-4-2596

E-mail:info@japan-a-academy.jp

Contents

●表紙写真:P1

表紙写真には、北海道開拓期に設けられた、現存する道内最古の駅通所の旧島松駅通所を掲載しました。

●会員セミナー講演要旨:P2~8

川村裕樹さん(北広島市企画財政部長兼ボールパーク推進室長)、吉田智樹さん(北広島市教育委員会教育部長)、橋本博さん(北広島市議会議員・郷土史家)をお招きし、大変貴重なお話を伺いました。(所属・役職は当時)



日本自治 ACADEMY 制作
北海道・ジャパン・アジア・台湾マップ
大人気★好評販売中!
【マップ見本&ご注文は】
<http://www.japan-a-academy.jp> 日本自治 ACADEMY



旧島松駅通所(上:明治後期頃、左:現在) 駅通所は、北海道開拓期に、宿泊や郵便、人馬による運送などを担うために設置された。最盛期には道内各地に 600 か所以上あった。島松駅通所は明治 6 年(1873 年)に設置され、明治 10 年(1877 年)には、札幌農学校の教頭であったクラーク博士が、任期を終え米国に帰国する際に立ち寄り、「Boys be ambitious! (青年よ、大志を抱け)」という名言を残した。現存する駅通所としては、道内最古のもの。(写真:北広島市教育委員会提供)

会員セミナー講演要旨

日本自治 ACADEMY では、2022 年度に 2 回(① 5 月 21 日、②10 月 15 日)の会員セミナーを開催しました。1 回目は、今話題のファイターズ新球場の北広島市の取組について、市のお二人の講師から、お話を伺いました。2 回目は、北広島市在住の橋本博さんから、明治開拓初期の中山久蔵の功績などについて、ご紹介いただきました。その講演要旨をご紹介します。

講演要旨 I : 5 月 21 日開催

「北広島市のまちづくりとボールパーク」

川村 裕樹 さん(北広島市企画財政部長
兼ボールパーク推進室長)

吉田 智樹 さん(北広島市教育委員会
教育部長)

北広島市の教育

北広島市教育委員会の吉田でございます。私からは、北広島市の教育とファイターズとの連携事業の取組などについて、ご紹介します。

まず、北広島の概況についてお話ししますと、明治 17 年(1884 年)、広島県人 25 戸、103 人が開拓に入りました。北広島市という名前の由来もここから来ております。そして、昭和 43 年(1968 年)に広島村から、広島町となり、昭和 45 年(1970 年)には、道営北広島団地が起工されて、人口が一気に増えます。その後、平成 8 年(1996 年)に市制施行を迎えました。現在のところ、人口のピークは、平成 19 年(2007 年)6 月末の 61,199 人でございます(令和 4 年 4 月末の人口 : 57,569 人)。

本市の教育についてであります、3 人の持つ人間像を目指して、教育を進めております。一人目は、和田郁次郎。彼は、広島県人の入植の先頭



に立って、開拓に励みました。二人目は、中山久蔵。彼は、広島県人が入植する前の明治 6 年(1873 年)に入植し、米作りは不可能といわれたこの地で、赤毛米(「ゆめぴりか」や「ななつぼし」の先祖)の栽培に成功しました。三人目は、クラーク博士。中山久蔵の自宅も兼ねていた旧島松駅通所で、クラーク博士は、有名な「Boys be ambitious!」という言葉を残しました。

和田郁次郎の「交流に励む」、中山久蔵の「成長に挑む」、クラーク博士の「希望を抱く」というメッセージが、北広島市の教育が目指している人間像です。

学校教育に関しては、平成 30 年度に全市で一斉に小中一貫教育を導入しております。昨年(2021 年)は、本市で小中一貫教育全国サミットを開催しまして、その成果を発表させていただいたところです。また、道内では 2 番目に導入したコミュニティスクール(学校運営に地域の声を反映する仕組み)ですが、これは、中学校区ごとに、順次実施地区を増やし、全市に拡大を図ってきているところです。

また、社会教育領域におきましては、地域の方々が自ら考えて自ら企画するという生涯学習振興会が各地区にありますし、国指定文化財の旧島松駅通所の保存活用に取り組むとともに、赤毛米を使った給食を小学 5 年生に年 1 回食べていただくなどのふるさと意識の醸成にも取り組んでおります。スポーツ活動の推進では、令和 3 年から、「スポーツに親しみ元氣あふれるきたひろしま」をめざす姿とし、10 か年のスポーツ振興計画がスタートしております。

北広島市は、大きく 5 つの地区に分かれています。まず、東部地区(青色部分)、ここには、

JR 北広島駅、市役所、文化ホール、図書館、それから、北海道ボールパークもこの地区になります。

東部地区の中央部には、北広島団地地区(黄色部分)がありまして、昭和 46 年に道営団地が造成されたところです。



西部地区(緑色部分)には、旧島松駅通所や、ビッグイベントである ANA オープン等が行われる島松ゴルフ場や輪厚ゴルフ場など 6 つのゴルフ場があります。

大曲地区(オレンジ部分)には、高速道路の北広島インターチェンジがありまして、三井アウトレットモールやホクレンくるるの杜(もり)などもここに 있습니다。

西の里地区(ピンク部分)は、厚別区の新札幌と隣接しておりまして、厚別区の生活圏と重なっている地域です。

この 5 つの地区に、分校も入れまして、小学校が 9 校、中学校が 7 校、ございます。そのほかに市教委の所管外ですが、私立幼稚園 8 園、私立中学校 1 校、道立、私立の高校 3 校、特別支援学校 2 校、大学 1 校、専門学校 1 校があります。

ファイターズとの連携事業の取組

最初に、学校教育に係る連携についてです。これは、2019 年から始めたので、現在 4 年目になりました。3 年サイクルで実施しているので、今

年からメニューが新しくなりました。ファイターズが考案したプログラムを使って、走力・投力・基礎運動能力を高める体育の授業を行っております。合わせて、キャリア教育ということで、子どもたちが夢を抱けるようなお話をファイターズの球団の方にやっていただいております。

この取組に対するアンケート結果からも、子どもたちにとって、プロ野球選手からお話を聞いたり、実際に動いている姿を見ることが、子どもたちのモチベーションのアップにつながっていることがわかります。

また、この取組後の体力テストの結果からは、大曲小学校 5 年生の例ですが、男女ともに、50M 走もソフトボール投げも全道、全国平均を上回ったことがわかりました。

次は、市の既存事業との連携です。一つは子ども発達支援センターが行う行事です。ファイターズアカデミーのコーチから、保育園や幼稚園で働く保育士に、子どもたちが楽しみながら取り組めるダンス遊びや運動遊びを教えていただく講演会を実施しました。大変好評でした。二つ目は、ウォーキングイベントです。北広島駅から建設中のボールパークまで、そして、ボールパーク外周を一周しました。市内在住の方がほとんどでしたが、北広島駅からボールパークまでは、徒歩でも、それほど遠くはないということを実感していただいたと思っております。

次は社会教育に係る連携です。今はスポーツは「する」だけではなく、「みる」「ささえる」ということもスポーツだといわれています。これを具現化するような事業はないかということで、ファイターズに協力していただきました。

ドーム球場で、5 回裏に子どもたちが YMCA のダンスを踊るという事業です。昨年(2021 年)から始めまして、取組の手順としては、まず、市内にある星槎道都大の学生を募集して、ファイターズガールに学生を指導してもらいました。そして、その学生が子どもたちにダンスを教えます。ダンスを教えてもらうことにより、野球に関心のなかった親御さんたちが、子どもと一緒に

に実際に野球を見に行ってくれます。ということで、「する」「みる」「ささえる」ということがいっぺんにできる事業となりました。今年も、募集しまして（180 名程の応募）、この 6 月 19 日のドームの試合の中で、YMCA のダンスを踊ることになっています。

このほか、例年開催している「きたひろしま 30 年ロードレース」に、ファイターズファンの交流イベントとして、ファイターズラン部門を設けたり、ボールパークが見える市役所 5 階の窓ガラスに、子どもたちとアーティストがボールパークにちなんだ絵を描くイベントも行いました。

ファイターズからの支援、ファイターズとの協定

北広島には軟式野球場があります。しかし、この外野芝生が害虫被害に合いまして使えない状態でした。ファイターズの方がそれを見まして、同じ野球場を作っておきながら、こうした野球場があることは放置できないということで、芝生を寄贈していただきました。

また、それに止まらず、アメリカメジャーリーグ仕様のマウンドとバッターボックスも作っていただきました。少々固いのですが、子どもたちは、このような野球場を使えることを大変喜んでいきます。

それから、ファイターズ側からの提案で、小学生には是非今の工事風景を見ていただきたいということで、現在、小学校側と調整を行っている最中です。工事は大林組さんが行っていますが、見学時には、工事を一時中断するとのことでした。

そして、総合体育館の指定管理者である市スポーツ協会と、ファイターズ、市が三者協定を結び、ファイターズの知見を活かし、子どもたちの運動ポテンシャルを広げ、体を動かすことの楽しさを実感することで、大人になってもスポーツに親しむ機会を苦にしない心づくりを目指すことにしています。

私の話の最後になりますが、北広島市とファイターズは、先を見据えた連携により、スポーツを活かしたまちづくりに一層努めていきたいと

考えております。以上です。ご清聴ありがとうございました。

☆ ☆ ☆



ボールパークの誘致の経緯

北広島市企画財政部長の川村でございます。はじめにボールパーク誘致の経緯からお話をさせていただきます。2002 年（平成 14 年）に、日本ハムが東京から北海道に移転する際、実は、今札幌の苗穂にある室内練習場を北広島に誘致しようという動きがありました。

その後、2015 年（平成 27 年）に、今ボールパークが建設されている場所で、総合運動公園の構想が持ち上がった際、これを民間活力を活用して整備できないか検討調査を開始いたしました。

この時、道内にあるプロスポーツチームとのやり取りの中で、ファイターズが新球場建設を考えていることを知り、ファイターズの札幌の子会社には、北広島の構想について、真剣に伝えてまいりました。そして、2016 年の 12 月には、権限のあるファイターズの親会社の方にも、新球場の北広島誘致の提案書を提出し、これまで実務者協議を進めてまいりました。

吉田の方からも説明があったように、その際、我々の目指す都市像と、ファイターズの企業理念には、スポーツを通して社会課題を解決するということが掲げられていますので、ファイターズ側とは、どう連携すれば、望むようなまちづくりが進めていけるか、しっかりと話し合いを行っ

てきました。

そして、正式に着工に至り、今年（2022 年）12 月には竣工する予定となっております。現時点での工事の進捗率は 77%でございます。

ボールパークエリアについて

球場名が、エスコンフィールド北海道といいます。エスコンという名前は日本エスコンという不動産会社がネーミングライツをとりました。10 年間で 50 億円です。国内最高額で、特徴的なのは、開業前からネーミングライツを付けて権利を発生させていることです。

普通は、開業してから名前を付けて PR するのがほとんどです。作っている最中から権利を発生させ、建設費の一部に充当しています。

そして、ここは総合運動公園なので、都市公園区域です。都市公園区域の中に新球場を作ることをご了承してもらうため、都市計画の変更も含め、かなり苦勞をして、関係機関と調整を行いました。

また、このボールパークエリアにおいては、各段階で整備目標をクリアしながら、いつまでも完成しないエリアにしようと考えています。新球場を核としながら、エリアをどんどん拡張していくことにしています。

我々としては、野球場だけでなく、ボールパークにするため、住むところ、遊ぶところ、食べるところを散りばめたエリアにしていきたいということで、様々なパートナーさんと話し合いを進めているところです。

具体的には、まず一つは、ファイターズショップです。これは今も札幌の福住にあります。北海道の基幹店として整備したいと思っています。

それから、レフト側にビルを建てて、最上階はホテルにします。1,300 トル掘りまして、モール温泉が出ましたので、温泉やサウナに入りながら野球観戦をすることができます。

また、レストランや、クラフトビール醸造所、サウナ付きのコテージ、キャンプ施設、大型の遊具施設などを作り、そこでは、引退したファイタ

ーズの選手たちのセカンドキャリアの場にもしたいと考えています。

そのほか、投資用ではなく住むためのマンション、商業棟、ここには情報を発信する観光協会も入ります。農園や、認定こども園も作ります。

そして、このボールパークは入場料と座席料が別になっていますので、小学生以下の子どもたちの入場料をタダにして、野球場の雰囲気を手軽に味わってもらおうと考えています。

また、このボールパークは、市長も言っていますが、北海道のシンボルに育てたいと思っていますので、北広島を中心として 17 市町村と連携を図り、ボールパークにおいて、様々な取組を展開していけたらと考えています。

災害の関係も北海道や札幌市と話し合いを進めています。3 万人が 3 日間暮らせるだけの食料の備蓄をします。ここを都市型の防災拠点として、札幌市で災害が生じた場合など、ここから札幌市にどんどん物資を搬送するということも考えています。そのための緊急輸送用道路の整備も提案しています。

市の取組について

市の取組についてです。まず、ボールパークに来る 3 万人あまりの入場者をどうさばっていくか。

これまで、様々な交通事業者と話を進めてきて、まず、車での移動については、主要な国道や道道と連絡する周辺道路の整備を国などの支援を得ながら、進めてきております。総事業費は 200 億円ぐらいかかります。

新駅についても、JR と協議をし、概ね固まってきました。私どもとしましては、新駅を中心としたまちづくりを行っていくこととしておりまして、来年（2023 年）の春から順次着工する運びとなっております。

また、今の北広島駅西口についてですが、駅前に自分たちのマチとして誇れるものを何か作ろうということで動きました。周辺の市の所有地を民間に売却しまして、70 億円あまりの総事業

費で、民間事業者が公共的な施設整備を行うということで、今年の春から既に着工しております。来年秋には、複合交流拠点として完成する予定となっております。

これら、今、市が行っている取組を有効に機能させていくため、北広島市が事務局となり、北海道ボールパーク連携協議会を作りました。そこには、周辺の17市町村と民間事業者を含めて38団体が参加しております。ここで、これから、様々な事業を進めていくための連携策を協議しております。

おわりに

今、ボールパーク建設のため、1,200人の方が24時間体制で工事を行っております。大きな経済効果を北広島にもたらしめています。工事に使われている大型のクレーンを見るために、多くの方も訪れています。そして、皆さん、ボールパークの完成を心待ちにしております。

北広島市としては、このボールパークを北海道のシンボルに育てたいと考えております。ボールパークに北広島という地名は入れませんでした。北海道というブランドを全面に押し出して、周辺市町村みんなで、その価値を共有していきたいと思っております。

そして、このボールパークの整備を進めて行くに当たり、市のそれぞれの担当部局では、課題を掲げ、多くの民間事業者と話し合いを行ってきました。市の職員にとっては、この経験を通して、民間事業者の方から、多くの事を学んできたと思います。非常に感謝をいたしているところです。

最後に、このボールパークは稼げる施設にすることが大変重要だと考えております。それを周辺市町村に還元していくことで、都市連携を進めていきたいと思っております。

2023年3月に向けて、今後とも、頑張っていきます。きょうは、ご清聴いただきありがとうございます。

講演要旨Ⅱ：10月15日開催

「中山久蔵の米づくりと 明治初期の北海道農業」

橋本 博 さん
(北広島市議会議員・郷土史家)

橋本 博(はしもと・ひろし)さんのプロフィール

昭和17年北広島市生まれ。80歳。野幌機農高及び酪農学園短大で学んだ後、雪印乳業東京工場勤務、精肉店経営、北広島商工会青年部長、青年会議所理事長等を経験。昭和62年44歳で北広島町議会(当時)議員初当選。現在9期目。この間、議長を2度務める。

一方、郷土史家として、特に明治6年北広島市島松で寒地稲作に初めて成功した中山久蔵の研究に邁進し、「中山久蔵を顕彰する会」を牽引するとともに、久蔵の出身地・大阪府太子町や、来道前に仙台藩士・片倉英馬に仕えていた宮城県登米市など、縁の深い地域との交流にも力を注いでいる。編著書に、「寒地・米づくりの祖 中山久蔵の足跡を辿って」(発行:中山久蔵を顕彰する会、平成26年、702頁)、「寒地・米づくりの祖 中山久蔵伝」(発行:中山久蔵を顕彰する会、令和3年、271頁)がある。

はじめに

ただいまご紹介いただきました北広島の橋本でございます。寒地・米づくりの祖、中山久蔵について、お話をさせていただきたいと存じます。

最初に、久蔵が入植した島松沢にある駅通所を取り巻く昨今の状況についてのお話から始めたいと思います。島松駅通所が久蔵の自宅として、そこが寒地稲作の発祥の地となり、来年(2023年)は、成功から150年の節目の年となります。

私は、地域の皆さんと協力し、この駅通所周辺のエリアを基点として、先人が残した開拓時の足跡などを生かした活性化に今、取り組んでいくところでございます。



その一つに、クラーク博士の銅像建立があります。この駅通所は、クラーク博士が明治 10 年（1877 年）に、久蔵宅に寄りまして、学生と別れた場所でもあります。

実は、5、6 年前から、クラーク博士が馬そりに乗った銅像を建てようという動きが出まして、今、5,000 万円を目標に、その寄付を募っているところでございます。

北大農学部を主体に、全国の大学の農学部到手紙を出し、お願いをしているところでございまして、2026 年がちょうど北大農学部が 150 年の節目を迎えることから、それまでに銅像を建てようとしており、私どもも、全面的に協力をしております。

また、明治天皇が、明治 14 年 9 月に駅通所にいらっしゃり、そこで食事を取られ、稲田もゆっくりとご覧になりました。久蔵とも親しくお話をされました。久蔵は平民ではありましたが、後に触れますが、有名な仙台藩士のところで作法などを十分に会得しておりましたので、失礼のない対応であったと推測されます。

島松駅通所周辺は、そういう歴史的なことが凝縮された土地でもありますので、私どもとしては、この駅通所周辺の活性化に取り組んでいくことで、北広島のまちづくりの一助になればと考えているところでございます。

中山久蔵の生い立ち、経験

さて、本題の久蔵の米づくりと明治初期の北海道農業の話に入りたいと存じます。

なぜ、久蔵は稲作に適さないといわれていた道南以北の寒冷地で米作りに取り組み、そして成

功したのか。そこには、久蔵が北広島の島松沢に入植するまでの生い立ちや様々な経験が基礎となっています。

今日は、これまであまり知られていない久蔵の生い立ち、経歴、人間像などについて、私見を交え、お時間の中で、お話をさせていただきたいと思います。

久蔵の出身地である大阪の太子町あたりは、1,400 年の歴史がありまして、聖徳太子の御廟や、飛鳥時代の天皇、皇族などの古墳群があり、非常に信仰心の強い風土を持っています。

また、「竹内街道」という歴史ある街道がこの太子町を通っており、飛鳥時代、大陸や朝鮮半島の使節を迎えるための外交路の役割を果たすとともに、中世になると聖徳太子信仰が盛んになり、御廟への参詣者の通行も増えた重要な街道でした。

久蔵は、この太子町で、1828 年に農家の次男として生まれ、太子町が持つ風土の中で、その精神を育みました。

17 歳の時には、親の許しも得ず、江戸・大阪など諸国を放浪する旅に出て、それが 25 歳まで続きました。そして、縁があり、今の宮城県登米市に入り、仙台藩士、片倉英馬に仕えました。1853 年のことです。

この片倉家は、わずか 300 石ですが、非常に由緒のある家柄で、1200 年の歴史がありました。片倉家の持つ歴史については、ここでは省略いたしますが、この片倉家に、久蔵は奉公したわけ

です。そして、北海道開拓で果たす功績の元となる久蔵の人柄、人間力、筆の達筆さというものは、幼少期に太子町で培った精神の上に、この片倉家での第二の人生において、会得していったものと考えております。

久蔵は、ここに 17 年間おり、農作業を手伝ったり、筆字や礼儀作法の習得などをして過ごすとともに、当時、仙台藩が北方警備のために、白老に陣屋を持っていたことから、登米と白老の間を幾度か往来しておりました。

当時の資料を私なりに調べた結果、久蔵は、どうも飛脚の役割をそこでは果たしていたのではないかということが推測されます。

この地域は仙台藩の米どころです。住居の回りには大小の沼がいっぱいあり、沼の水は日差しで暖まりました。久蔵はそこで自然の摂理を会得し、久蔵が北海道に来た時に、発芽の温度を促進することを技術ではなく、肌で感じていたことが、稲作成功の一因ではないかと考えています。

道南の大野村から、久蔵が赤毛米の種子を分けていただきまして、登米で会得した経験を活用し、ジグザグの段水路という溝を掘り、そこに沸かしたお湯を注ぎ、温度を上げて、発芽を促進しました。学術的なものはなにもございませんでした。

ちなみに、北海道では、駒場農学校 2 期生の酒匂常明（さこう つねあきら）が、明治 25 年に板垣長官に招かれ、北海道に来て、稲作試験場を作り、28 年に「北海道米作論」を書きました。これが、技術的なものの最初といわれています。この方が、久蔵に、農民の指導を頼み、久蔵は今でいうところの改良普及員の第 1 号ではないかと私は思っております。

米づくりに成功した久蔵は、この駅通所で、いろいろな人と出会い、親交を深めていきました。駅通所は札幌に行くには必ず通らなければなりません。明治 6 年には、函館から札幌までの道路が開通し、駅通所前を通過します。

松本十郎（庄内藩出身。開拓使で北海道開拓事業にあたる）は、米のことで、たびたび久蔵のもとを訪れました。後に、北大の総長になる南鷹次郎（農学者）や品川弥二郎（長州藩出身の政治家）も宿泊しました。宇和島の伊達藩の十代目も北海道への移住地と考えていた江別に赴く際に、この駅通所に宿泊しました。

また、久蔵は、利他の精神に富んでいまして、多くの寄進、寄付をしています。駅通所に隣接し

ていた 50 万坪の開拓した土地を無償で陸軍大演習場の用地として提供しましたし、学校やお寺などにも多額の寄付をしました。

明治 12 年には、今の道庁に赴き、栽培した粳種百俵を無償で北海道各地に頒布したいという申し出を行っております。そのことについては、お手元に配布した郡司美枝さんの資料では、明治 12 年の浦河郡在住の 2 名の方から始まり、明治 41 年まで続いたことが記されております。

これらの交流や寄付などの背景には、出身地の太子町の持つ風土の中で育ったことが、その源になっていると考えております。

おわりに

久蔵が明治 6 年（1873 年）に島松で試作に成功した赤毛米は、今の北海道米のトップブランドである「ゆめぴりか」につながっています。

琴似で水田を開いていた江頭庄三郎が、赤毛の栽培の中で、明治 28 年に、粳（もみ）に毛（芒／のぎ）のない新品種「坊主」を発見しました。その後、育成が進み、明治 38 年頃に本格的に「坊主」としてデビューしていくことになります。赤毛から選抜されたもので、芒が無いことから、この名がつけられました。

坊主になりましてからも、赤毛の耐冷性遺伝子は消滅することなく現在の北海道の主力品種である「ななつぼし」や「ゆめぴりか」などとして受け継がれているところでもあります。

この大変な北海道での水稻栽培の先導役を果たしたのが、旭川の屯田兵村の方々と、私もその地域を何回か訪れました。屯田兵村では、米づくりを新政府に申し出たり、東北や満州まで普及したタコ足型もみまき器など独自の農作業用機械を発明したりして、稲作の発展に貢献しました。久蔵は、この屯田兵村にも赤毛の粳を提供したことから、旭山動物園近くの裏山に、久蔵と屯田兵の方の碑が昭和になってから建てられています。

以上、久蔵の北海道稲作に果たした功績などをご紹介します。お話を終わります。（了）